

知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校
校長室だより

校長 白田 敏幸

言葉が変わると子供が変わる

「大人が変わると子供が変わる」山形県で平成12年から実施している県民運動です。
<https://www.pref.yamagata.jp/010003/bunkyo/wakamonoseishounen/seishonen/otonakenminundou.html>
(詳細は上記 URL 参照)

これだけでは、どう大人が変わればいいのか具体的な姿が見えません。そこで、次のように「言葉」を変えてみてはどうでしょうか？

なんでできないの？ → どこが難しかった？

なんで分からないの → どこまで分かった？

なんでそんなことするの？ → 何がしたかった？

なんでそんな態度をするの？ → 何が嫌だったの？

言うことを聞きなさい！ → あなたはどうしたいの？（どうしたかったの？）

こうしてみると、「なんで？」という言葉は、子供を責めている言葉のようです。

(心に余裕がないときには、どうしても言葉がきつくなります。それはそれで仕方がないことだとは思いますが。)

未熟とはいえ、子供も人格をもった一人の人間です。

子供扱いすることなく、一人の人間として接するべきなのかもしれません。

子供にも、ちゃんとした「思い」があります。

この「思い」に耳を傾げるところから、本当の「対話」が始まるのではないのでしょうか。

